会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和2年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」（２）教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果②教職員研修プログラムの構築 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第3回教員研修プログラム開発委員会 |
| 開催日時 | 令和3年1月25日（火）　14時00分～15時00分 |
| 場所 | オンライン会議 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡 信吾 委　員：上里　政光、岡村　慎一、岩切　直子、植上　一希、猪俣　昇　　　　　　　　　　　　　計6名請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　　　計1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計7名 |
| 議題等 | 1. 各WGの進捗報告①学習評価WG（植上）◆11月以降の活動概要・10月までのWG・研究者会議での議論をもとに、調査案を設計し、アンケート調査グループとアクションリサーチグループに分かれて、データ収集・分析を行った。・アクションリサーチは計5名の先生にインタビューを実施した。・アンケート調査は計195件の回答を得られた。・現在データ分析に入っている。◆進捗状況および課題(1)アンケート調査について・アンケートの位置付け：プログラム開発のための客観的な根拠収集⇒その手段として非認知能力の評価基準に関する実態調査目的は専門学校教育において非認知能力の位置づけられ方、意識のされ方などを調査し、「手引き」や「研修プログラム」の必要性の根拠とする。・大変重要なデータが得られたので、セミナー・研究等で発信していきたい。・アンケートの回答件数は195件。第5回WGの議論を踏まえ教務責任者、一般教員調査の追加分析が概ね終了、報告書作成段階に移行している。・色々な項目で客観的で有効なデータが得られた。アンケートの分析結果は2月に提示する。(2)アクションリサーチグループについて・アクションリサーチの位置付け：専門学校の先生方が、現場において非認知能力の目標化・言語化をどのようにおこなっているのか、その現状を明らかにする。来年度以降のアクションリサーチに向けた予備調査としての位置付け。目的は現場での非認知能力の目標化・言語化の現状を聞き取る。・もともと、インタビュー調査・実際の現場への還元という形でのアクションリサーチを計画していたがコロナ禍のなかで、実際の現場への調査結果の還元という点については来年度に回すこととした。・インタビュー調査についてもコロナ禍悪化に伴い、KBC学園さんなど調査計画が変更を余儀なくされ、限られたデータになった。・実態としては非認知能力が育成されている側面があるが、言語化されている場合とされていない場合があり、言語化できる先生の中にも、その言語化の次元やレベルが様々である。分類分けをすることで研修の組み立て方などが変わってくることが知見として得られた。◆今後の予定・1月25日　学習評価WG（第6回）でアクションリサーチ、アンケートの結果を報告、委員で議論をする予定。・報告書はアンケート調査の結果・分析、インタビュー調査の結果・分析を中心とする。　【確認事項・意見等】・現場への還元はどのような形でする予定だったか？（高岡）・学習評価研修プログラムの作成、評価に関する評価や整理の仕方の手引書の作成、評価シートを作成する予定だった。そのためのアクションリサーチが十分にできなかった。（植上）・来年の目標は？（高岡）・委員の継続が可能であれば、4月・5月から着手できれば、目標はクリアできると考えるが状況は厳しいと感じる。（植上）②ICT活用研修WG（猪俣）◆11月以降の活動概要・アンケート調査がメインとなった。専門学校4校、大学・大学院4校、短期大学3校、高等学校4校、学習塾3校、障害者支援1校、プログラミングスクール1校、計20校となった。・基本的にオンラインでのヒアリングが中心となった。◆会議＆活動内容・ヒアリングが中心となり会議はなし。◆進捗状況及び課題・ヒアリングは計画したスケジュール通り終了した。・新型コロナの影響に伴いオンラインでの実施がメインとなった。・オンラインだったため、ヒアリングの際の画像や資料などがなく、アウ　トプットの成果物の品質の担保とボリュームが課題となっている。◆今後の予定・第4回ICT活用研修WGを1月29日予定。議題としては、アウトプットの品質、調査によって得られた知見の共有、成果報告と普及について、教育プログラム作成方針の検討を予定している。・第5回ICT活用研修WGは2月下旬～3月上旬を予定。◆今年度の着地点目標・調査報告書の作成、教育プログラムの作成方針の確定の2つ。【確認事項・意見等】・国内の外、海外の調査をしたらどうかという提案があったが、現状はどうか？（高岡）・ヒアリング調査はスケジュール通り終了しているので、考えていない。（猪俣）2. 成果報告会・実績報告等の運営スケジュール（上里）・文科省への実績報告書の提出は3月12日が期日となっている。3月10日を目途に実績報告に必要なもの（成果物・録画など）を揃えたい。成果物の原稿は2月中旬過ぎまでには欲しい。（飯塚）・原稿はパワーポイント良いのか。（植上）・ビデオはパワーポイント資料を使用し解説を付ける形になると思うので、ビデオに使用する資料は活動成果を凝縮したもので良い。（飯塚）・2月中旬過ぎまでには作成完了できると思う。（植上・猪俣）・2月19日原稿提出。その後仕様承認、印刷・発送となる。(飯塚)・それぞれのWGでビデオの撮影・作成をお願いしたい。（上里）3. 今後のスケジュール・第4回教員研修プログラム開発委員会　3月3日（水）14時00分～16時00分福岡にて対面を予定するが状況次第でオンラインを検討。 |
| 配布資料 | ・1月25日WG会議 アクションリサーチ報告・アンケート調査グループ報告・学習評価WG報告・ICT活用研修WG報告 |

以上